

令和5年度 一年間の教育・保育に対する自己評価

ゆたか保育園

たんぽぽ組

低月齢児が多く室内で遊ぶ事が多かった。個々の成長にあわせ寄りそって保育をする事が出来た。後半は歩行できるようになり遊びの幅が広がり、体を動かしたりとよく遊べるようになった。

ちゅうりっぷ組

友達との関わりが多い子は多いが不安や甘えから保育者の側から離れられない子には、遊びの中で声掛けや関わりを増やし少しずつ友達と遊べる様にした。一人ひとりの子どもの様子を見ながら援助すべき所は何か、職員間で話す機会を設け関わられた。

ばら組

基本的な生活習慣では、月齢や個々の発達状況に応じ適切な援助を心掛けることで無理なく進めることができた。スプーンから箸への移行も食育指導をきっかけに興味を持って取り組めた。大きな怪我はなかったが、転倒が多かったので散歩や運動遊びを取り入れ体幹を鍛えることで転ばなくなった。老人ホームとの交流会が感染症などで中止になったので実施する時期など考慮して実行できるようにしていきたい。

ゆり組

基本的な生活習慣は身に付き、自分の身の回りのことはスムーズに行えるようになった。集団生活での一日の流れも理解でき、まわりを見ながら行動できるようになった。最初はひとり遊びが多かった子ども達も、友達と関われるようになりやりとりを楽しみながら集団で遊びを広げていた。生活や遊びの中で思った事・感じた事などを伸びのびと体や言葉で表現できるようになった。

さくら組

集団生活の基礎を学び、みんなで取り組むことの楽しさや目的を達成することの嬉しさを感じる事が出来ていた。ひらがなや数字といったものにも興味を広げ、意欲的に覚えたり、ルールを守る事など規範意識が身についてきた。

すみれ組

様々な行事や体験を通して、子どもたちが色々な経験をすることができ、自分のやりたいことを見つけられた子が多かった。サポートが必要な子に対して、生活をしていく中で思いやりを持ち、支え合っていくことが自然に身についた。就学に向け文字や数に興味を持って自主的に勉強する子が多くいた。